

競泳選手

亀田 菜月^{さん}

かめだ なつき

JSS登別スイミングスクール所属。

北海道登別明日中等教育学校4年生。

日本選手権など日本を代表する大会に数多く出場。昨年11月には海外の有力選手も参加した『FINA競泳ワールドカップ東京2011』に、北海道の女子選手として唯一出場を果たす。

もっと自信をもって泳げる
強い選手になりたい



穏やかな表情で、はきはきと話す亀田さんが、水泳と出会ったのは6歳のときでした。

幼いころから水を怖がらなかったという亀田さんは、両親の勧めで室蘭市内のスイミングスクールに通い始め、それからわずか半年後、彼女の才能を見いだしたコーチの勧めで、競泳選手を育成する『選手コース』に入ります。

「まだ4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）も習っていないので、訳も分からず選手コースで泳いでいました」「全然泳げなかったので、タイムを意識するどころじゃなかったですね」と、亀田さんは当時を振り返ります。

そんな亀田さんが、『勝負としての水泳』を強く意識したのは、小学6年生で出場を果たした『全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会』の舞台。「初めての全国大会は、今までの大会と全く違う空気を感じて、とにかく圧倒されました」と亀田さんは言います。

その大会をきっかけに、さらに泳ぎに磨きをかけ、亀田さんは現在まで、同大会に、春・夏合わせて8回の出場を果たしています。

そんな亀田さんに、2012年に挑戦したいことを尋ねると、答えはすぐに返ってきました。

それは『全国大会でもう一度表彰台に上ること』。今はこの目標が、



▲オーストラリアの大会に出場する亀田さん

厳しい練習を乗り越える力になっていくと、亀田さんは話してくれました。「今自分に一番足りないものは、心の強さだと思うので、もっと前向きに考えて、自信をもって泳げる、心の強い選手になりたいです」と、競泳選手としての今と未来を見つめます。

普段は市内の学校に通う現役女子高校生の亀田さん。勉強と水泳の両立も、大きな課題だそうです。

「将来の夢もあるので、学校の勉強も手を抜きたくないんです。大変なんですけどね」と、はにかんで笑う亀田さんは、2月に行われる『日本選手権（短水路）』に向けて、今日もコースに立ち、ほかの誰でもない自分自身の心と闘っています。